

御祓中だより

冬休み号 (裏面あり)

学校ホームページ <http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~misogj/NC2/htdocs/>
学校メールアドレス misogityu@city.nanao.ishikawa.jp

平成23年12月22日
No.11 七尾市立御祓中学校
TEL 53-0201

「冬休みだからできること」に挑戦！！

本日、2学期の終業式を終え、明日から18日間の長い冬休みに入ります。2学期の反省と3学期の目標をしっかり持って取り組んでほしいものです。

さて、この冬休みに、ご家族で「冬休みだからできること」二つに取り組んでほしいと思います。

その一つは、『家読(うちどく)』をしようです。これは、七尾市が策定している「第二次七尾市子どもの読書活動推進計画」によって『伸ばせ！七尾っ子』プロジェクトが推進している取り組みです。

具体的な取組は、

①家族で同じ一冊の本を読んでもいいし、それぞれ別の本を読んでもよい。

②家族みんなと一緒に『読書の時間』を過ごす。

③『読書の時間』は5分間でも10分間でもよいが、毎日習慣になって続ける。

以上、家族みんなで同じ『読書の時間』を共有することで、会話が広がり、絆も深まります。

二つ目は、『ありがとう宣言』をしようです。つまり、1週間の間に1日5回は『ありがとう』の言葉を書いて、「ありがとう週間(習慣)」をつくり、「ありがとう宣言」をするのです。

最初は照れくさいかもしれませんが、まずは作画的でも構いません。心がこもってなくても構いません。数をこなすだけでも結構です。義務でも構いません。とにかく、「ありがとう」の言葉を発する週間にして、「ありがとう」を発する習慣にすることで。

これは、先般の県P連地区別研究指定発表会の講演で、芳珠記念病院小児科の多賀千之(たがかずゆき)先生が、話されていた内容です。

多賀先生によると、勤務されている病院でも実施した結果、次のように『ありがとうの7原則』があることが分かったそうです。

《ありがとうの7原則》

- ①『ありがとう』には人を動かす力がある
- ②『ありがとう』と「すみません」は違う
- ③『ありがとう』は後出しでも効果あり
- ④『ありがとう』のハードル ⇒ 大切な人ほどハードルが高い
- ⑤『ありがとう』は伝染する ⇒ 相手の名前をつけて「ありがとう」と言う
- ⑥『ありがとう』は言われるのも言うのも嬉しい
- ⑦『ありがとう』のハードルは、一端下げると上がらない

学校でも「ありがとうの木」から『ありがとうの森』へ(右頁の記事参照)と取り組んでいますので、ご家庭の皆さんでも是非取り組んでいただきたいと思います。

この冬休みは、ご家族の皆さんで『家読(うちどく)』をしようと『ありがとう宣言』をしように挑戦して、冬休み明けにはその成果をお聞きしたいと思っております。どなたでも学校宛にご報告をお願いします。

『研究だより』から学校の取組を紹介

今年度の本校の研究概要については前号で紹介しましたが、研究の推進役を担うのが研究部会です。今年度はそのまとめ役、調整役として、野見英輝研究主任が、その担当をしています。研究部会として野見研究主任は、研究の方向性や内容について共通認識を持たなければならないという思いで、学校研究の取組が職員一丸となるように教職員向けに『研究だより』を発行しています。現在までに26号を発行していますが、その中から、学校の取組みを抜粋して紹介したいと思います。

◆「ありがとうの木」から『ありがとうの森』へ

生徒会を中心に進めているありがとうの木も今回が3回目になりました。1回目は4月に行われ、2回目の7月には家の人への感謝、今回は合唱コンクールでの友達等への感謝の気持ちをカードに書きました。生徒も真剣に取り組んでいました。そして教室掲示した「ありがとうの木」に興味を持って見ていました。「ありがとうの木」を通して、少しでも他者理解や自己肯定感を高めることができればいいと思います。また、それが授業の中で、安心して発言ができる雰囲気作りにつながると思っています。また、今までの「ありがとうの木」を集めて、『ありがとうの森』をつくっています。何となく、学校が明るくなったような気がします。

◆図書委員会の取組開始

いしかわ学校図書の日に関わる取組みとして図書委員会では、2つのことを始めました。1つめは、図書委員の「本の読み聞かせ」です。図書委員の方で絵本を選んで、朝読書の時間を利用してクラス全体に本の読み聞かせを行います。相手意識を持って話をすることができ、御祓の課題である発表力をつけるという事も結びつき、いい取組みであると思います。

もう一つは、「新聞記事を読んでみよう」です。新聞記事を読んだ後、1年生は記事の重要だと思う部分を抜き出す、2年生は記事の要点を100字程度にまとめる、3年生は記事に対する自分の考えを100字程度に書くという活動を行います。この活動は、読んで、考えて、まとめながら書くということを学年ごとに段階を追ってすることになっており、読解力をつけて、知識を活用する力をつけることができます。また、生徒は作文だとハードルが高いですが、要約なら書こうとする姿があり、少しでも書くことに対しての抵抗感がなくなればいいなと思います。読解力や思考力が定着してくれば、創造性や表現力をろげることも可能にする活動であり、今後が楽しみです。

第一回の今回は福島原発事故の後の風評被害に関する記事で、生徒は一生懸命書いていました。

※『研究だより』第23回より抜粋

大会成績

Congratulation!

◆一茶まつり全国小中学生俳句大会

秀逸 「能登島や 父の故郷 蝉時雨」 久木あずさ (22H)
 入選 「すだれがね 波打つように ゆれている」 金子 翔一 (22H)
 " 「窓辺から ちらりと見える 月涼し」 百海さやか (32H)

◆千代女少年少女全国俳句大会

入選 「キラキラと 光る青葉の 桜の木」 島津 航平 (11H)

◆第31回石川県中学校選抜バスケットボール大会

男子 2位

◆第26回七尾市中学生インドアソフトテニス研修大会

男子団体 優勝 田口善章(23H)・寺田智樹(22H)、森下太智(22H)・高田翔太(21H)
 出村宇宙(12H)・竿漕大夢(12H)、村田裕樹(22H)・深田 新(22H)
 男子個人 優勝 田口・寺田ペア 2位 森下・高田ペア 3位 出村・竿漕ペア

金沢大学の教授を講師に「サイエンス教室」を実施



中学生がマグマや噴火の仕組みを学ぶ
七尾・御校中
七尾市御校中の「サイエンス教室」の写真
11月1日、同中で行われ、1年生74人がマグ

北國H23. 12. 2

今年度の文化祭で、七尾高校理数科1年生による「サイエンスショー」を開催しましたが、今回はその第2弾で金大酒寄淳史教授による「サイエンス教室」を開催しました。

第3弾は2月29日に『NPO法人かながわ子ども教室』による「サイエンス教室」を開催する予定です。

まだまりの形成や火山噴火の仕組みなどに理解を深めた。
金大人間社会学域の酒寄淳史教授が講師を務め、マグマだまりは周りの岩石との密度差によって生じることなどを説明した。生徒は炭酸水をマグマに見立てた実験などに見入った。

橋乃洋関の学校訪問

12月2日(金)に七尾市出身の橋乃洋関(37)が、本校を訪れました。3年教室に入って、3年生と握手をしたり、みんなで集合写真を撮ったり、受験に向けて頑張るよう熱いエールをいただいたりして、盛り上がりました。

校長室で歓談をした際に、橋乃洋関の家族思いの温かい人柄、謙虚さ、そして、ふるさとに寄せる熱い思いを感じました。特に、橋乃洋関は「現役力士の中で最年長として頑張り続けるのは、番付表から出身地の『石川』という文字が消えないように」という思いであり、次の後進が育ってくれることを期待して頑張りたい」と言われ、私の心に印象深い言葉として残りました。来場所に向けて、さらに勝ち越せるように、改めて橋乃洋関にエールを送りたいと思います。がんばれ！橋乃洋関。

3年「ふるさと学習」

12月9日(金)に3年生を対象とした「ふるさと学習」が行われました。2年生大橋隆宏君のお父さんで長齢寺のご住職である大橋紀宏さんから「長齢寺と前田利家」の講話を拝聴しました。

夏休みに同じ3年生を対象とした「ふるさと歴史教室『山の寺めぐり』」を行い、今回の講話となりました。

いつまでもふるさとを愛し、母校に愛着を持てるような人材に育てていきたいと思っています。

◆地元文化に理解
七尾市御校中のふるさと学習は9日、同校で開かれ、3年生76人が同市小島町の曹洞宗長齢寺の大橋紀宏(きこう)住職から加賀藩祖前田利家の生涯や、利家が親の菩提(ぼだい)寺として建立した長齢寺にまつわる講話を聞き、地元の文化に理解を深めた。

(北國H23. 12. 10)

1月集金引き落とし日のお知らせ

今月の集金の引き落とし日は、1月10日(火)ですので、お間違えないようお願いいたします。

Let's call... オアシスライン

～親と子のなんでも電話相談室～

◆相談内容：悩んでいること、困っていること

◆TEL 0767-52-0783

◆受付時間：13:00～16:00(月曜～金曜)

*匿名でのお電話で構いません。秘密は守ります。

1年生が「ミニ門松作り」に挑戦

12月15、16日に県生涯学習インストラクターの会会員8名の方々が講師となつて、1年生に「ミニ門松作り」を指導してくださいました。

このねらいは、日本古来の伝統文化を生徒たちに知ってもらいたいということと、日頃から生徒たちを支え、見守ってくださいている地域の人たちに正月を気持ちよく迎えてもらいたいという思いでプレゼントをしよう、ということです。

生徒たちは、2時間かけて作品を作り上げ、仕上げには折り紙を折って作った龍の作品を添えました。生徒の中には、自分のうちへ持って帰りたいという声も聞かれましたが、今回は、地域の人たちへ贈ろうということで、心を込めて作りました。

冬休みに入ってから、地域の高齢者施設、保育園・幼稚園、公民館、児童館、総合病院、公共施設などにミニ門松を届ける予定です。

県生涯学習インストラクターの会会員の皆様、お世話になりました。本当にありがとうございました。

できあがったミニ門松 ↓

(中日H23. 12. 15、16)

松や竹飾って
ミニ門松作り
七尾市御坂中
七尾市御坂中学校の
一年生二十七人が十五
日、ミニ門松作りに挑
戦した。

県生涯学習インスト
ラクターの会の会員八
人が講師を務めた。竹
台の中に、松や竹、
梅、ナンテンなどを入

れ、「迎春」などと書
かれた飾りを施した。
正面にはしめ飾りを
配置し、生徒はバラ
ス良く仕上げようと真
剣に取り組んでいた。
来年のえとにちな
み、折り紙で竜も作っ
た。

門松は正月を気持ち
良く迎えてもら
おうと、校区の
小学校や病
院、高齢者施設
など約二十力所
に贈る。
(倉形友理)



松や竹を入れてミニ
門松を作る生徒
＝七尾市御坂中



よいお年をお迎えください

保護者の皆様、地域の皆様には、今年も大変お世話になりました。

本校職員もお預かりした大切なお子さんたちのために労を惜まず、力を注いできました。成果が上がったときには生徒とともに喜び、そうでないときは教師自らも悩み、生徒のために何ができるかということを考えながら、生徒に寄り添って声を掛けてきました。全体的には、まだまだ満足 of いくような成果や結果が見えないのかもしれませんが、来年度はさらにパワーアップして職員一丸となって取り組んでいく学校にしていきたいと考えております。そのためにも保護者の皆様、地域の皆様のお力添えが必要になることは申し上げるまでもありません。さらなるご理解とご協力をお願い致します。

今年もお世話になりました皆様に感謝を申し上げますとともに、よいお年をお迎えできますようお祈り申し上げます。今年もありがとうございました。